

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①「主体的な学び」を意識した授業展開を図るとともに、ITや特別支援を効果的に取り入れ基礎・基本の定着を目指す。②重点研の研究テーマを「子どもが主体的に学ぶ」授業を目指して」と設定し、国語の学習を通して各教科の学習の基本となる能力や主体的に学ぶ力を身につける。③学習状況調査の結果を詳しく分析し効果的な学習方法を検討する。	①学校として主体的に学ぶ子どもの姿を意識したこと、全職員が共通理解を図りながら、授業改善を進めることができた。②重点研究として取り組んだことで、国語科の授業づくりを知ることができた。③主体と、他教科の授業づくりへと広げていくことが必要である。④日々の授業改善へとつなげるための教材研究を引き続き行っていく。	B	確かな学力	①「学びたいと思いつける子」を意識して授業改善を図っていく。授業展開や授業形態を工夫したり、楽しさを味わえるような教材を準備したりする。②重点研究のテーマを「学びたいと思いつける子を目指して」とし、国語を中心に、各教科を通して力の育成を図る。③基礎、基本の定着を図るために、スキルタイムや家庭学習等を有効に活用する。	①学習のゴールを明確にして指導したことで、子どもたちが学び方を身に付け、楽しみながら学習している様子が見られた。②国語科における有効な手立てを見出すことができた。さらに、他教科へとつなげていけるようになりたい。③計画的にスキルタイムや家庭学習を設定したことで、子どもに習慣として定着してきた。	B	確かな学力	①学習指導要領の改訂を踏まえ、新教育課程策定に向けて授業改善を図っていく。授業展開や授業形態を工夫し、資質能力の育成を図る。②重点研究のテーマを「自己のよさに気づき、互いのよさを認め合う子どもを目指して」とし、道徳を中心に、全ての教育活動を通して心情を育てる。③基礎、基本の定着を図るために、スキルタイムや家庭学習等を有効に活用する。	①今年度重点研究と道徳授業力向上推進校としての研究を深め、教師一人ひとりが道徳授業力の向上を実現し、児童の道徳的実践力を高める。②道徳の授業や日常の道徳的指導を通して児童の自己有用感を高めるように取り組む。③学校全体で、学年連携して・学級で、挨拶についての取り組みを進め、積極的な挨拶と挨拶の習慣化の実現を目指す。	
豊かな心	①各学級の実態にあった授業を取り入れることで、自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を高める②地域とふれあう活動を大切にするとともに、総合の学習等ではまちで出会う「人」とのつながりを生かした学習を展開する。③自ら進んであいさつする姿を認め、学年に応じた取組につなげていく。	①各担任が学級の実態を考えた授業の展開を考えた。道徳の授業以外の全ての場面を活用し道徳の指導を行うことができた。②1・2・3・5学年では地域の人や学区内の保育園等とふれあう活動を展開することができた。③運営委員会が主体となり、挨拶の取組を行い、各学級からの代表が中心となって挨拶運動を展開した。	B	豊かな心	①「特別の教科道徳」の先行実施に合わせ、「考え・話し合う道徳」を志向した展開を工夫し、道徳的実践力を高める。②地域とふれあう活動を大切に、まちの「もの」や「人」との出会いやつながりを生かした学習を系統性を踏まえて展開する。③積極的な挨拶が習慣化できるよう、自ら進んで挨拶する姿を認め、学級間学年間で連携して取り組む。	①道徳推進教師を中心に「考え・話し合う道徳」の実践に向け、研究授業を行うなど、道徳的実践力の向上に努めた。②人権教育推進校として指導部を中心に、全校児童の人権感覚を高める工夫をした。③保護者の協力を呼びかけ、日常的な取組を通して挨拶や言葉遣いへの注意を促してきた結果、8割近くの児童ができるようになってきた。	B	豊かな心	①今年度重点研究と道徳授業力向上推進校としての研究を深め、教師一人ひとりが道徳授業力の向上を実現し、児童の道徳的実践力を高める。②道徳の授業や日常の道徳的指導を通して児童の自己有用感を高めるように取り組む。③学校全体で、学年連携して・学級で、挨拶についての取り組みを進め、積極的な挨拶と挨拶の習慣化の実現を目指す。	①今年度重点研究と道徳授業力向上推進校としての研究を深め、教師一人ひとりが道徳授業力の向上を実現し、児童の道徳的実践力を高める。②道徳の授業や日常の道徳的指導を通して児童の自己有用感を高めるように取り組む。③学校全体で、学年連携して・学級で、挨拶についての取り組みを進め、積極的な挨拶と挨拶の習慣化の実現を目指す。	
健やかな体	①「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に規則正しい生活をする姿勢を培い、自らの生活を見直すとともに実践力を高める。②一校一実践運動に「キラリンピック」を取り上げ、マラソンや長縄大会を通して体力の向上に励む。③養護教諭と連携しながら全学級で感染症やけがの予防に取り組む。	①長期休暇を生かして生活習慣の見直しをしたり、歯みがきカレンダーの活動に取り組んだりして、自分の生活習慣について考える機会を設けたことで、児童を実践しようとしていた。②児童会活動の取組を生かして活動を行ったことで、自主的に運動に親しむ様子が見られた。③保健室周りに掲示をして呼びかけ、児童の意識を高めた。	B	健やかな体	①規則正しい生活習慣を身に付け、自らの生活を見直したり、正しい生活習慣を実践したりする力を培うために、児童会活動の取組や学校保健委員会を活用する。②一校一実践運動を生かして、運動に親しむ機会を設けたり、外遊びを励行したりすることで、体力の向上につなげる。③養護教諭と連携して、自分の体に関心をもつ子どもを育てる。	①歯科巡回指導や学校保健委員会の取組を通し、子どもたちは生活習慣を見直すきっかけをもち、自ら進んで正しい生活習慣を身に付けようとする姿が見られた。②児童会活動や教職員の声かけで、子どもたちの運動する機会を増やすことができた。③養護教諭と担任が連携して、児童に働きかけたことで少しずつ関心をもち始めた。	A	健やかな体	①規則正しい生活習慣を身に付け、自らの生活を見直したり、正しい生活習慣を実践したりする力を培うために、児童会活動の取組や学校保健委員会を活用する。②一校一実践運動を生かして、運動に親しむ機会を設けたり、外遊びを励行したりすることで、体力の向上につなげる。③養護教諭と連携して、自分の体に関心をもつ子どもを育てる。	①規則正しい生活習慣を身に付け、自らの生活を見直したり、正しい生活習慣を実践したりする力を培うために、児童会活動の取組や学校保健委員会を活用する。②一校一実践運動を生かして、運動に親しむ機会を設けたり、外遊びを励行したりすることで、体力の向上につなげる。③養護教諭と連携して、自分の体に関心をもつ子どもを育てる。	
児童指導	①「学校のやくそく」を本校のスタンダードと捉え、全職員で共有して指導に当たる。②担任と学年職員、児童支援専任、管理職が課題を共有しチーム力で解決にあたるようにする。③職員会議内に児童理解の内容を定例化し、児童の状況を教職員で共通理解する。	①「下和泉のやくそく」を共有し、全職員で指導にあたることができた。また、毎月の振り返りにあたる点を出し合うことで折にふれて全校に話をしたり指導したりすることができた。②学年、専任、管理職が児童の様子を把握し、全職員に呼びかけることでチームで対応し、学級状態を改善することができた。	B	児童指導	①スタンダードを定着させ、全職員で共通の指導を行う。毎月学校づくり部会で振り返り、全校児童に一緒に話をすることで、意識できるようにする。②担任、児童支援専任、管理職、学校職員が児童の様子を把握し、課題を明確にし「チーム力」で解決にあたる。③職員会議などで児童理解の内容を定例化し、児童の状態や学級の様子を共通理解する。	①児童が生活目標を発表することで意識を高めていくことができた。スタンダードは定着しつつあるが、教室環境など細かい部分まで徹底できるようにしたい。②学級や個人の課題を担任一人ではなく、専任や管理職、養護教諭を交えて考え、指導にあたった。③職員会議の児童理解が定着し、共通理解して全職員で指導することができた。	B	児童指導	①児童に「下和泉のやくそく」が定着するよう全職員が共通の指導をしていく。毎月の学校づくり指導部会で課題を明確にし、朝会等で一緒に話をする。定期的にスタンダードの内容を見直すことで児童も職員も意識していくようにする。②配慮を要する児童に「チーム力」で支援と解決にあたる。学年、ブロック部会で様子を共有し、児童の状態に合わせた動きをとる。	①児童に「下和泉のやくそく」が定着するよう全職員が共通の指導をしていく。毎月の学校づくり指導部会で課題を明確にし、朝会等で一緒に話をする。定期的にスタンダードの内容を見直すことで児童も職員も意識していくようにする。②配慮を要する児童に「チーム力」で支援と解決にあたる。学年、ブロック部会で様子を共有し、児童の状態に合わせた動きをとる。	
特別支援教育	①児童一人ひとりの見取りを的確に行い、寄り添った指導を行う。②一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に進め情報共有する。③ユニバーサルデザインについて研修を深め、一般級でも積極的に活用する。④合理的配慮について研修会を実施する。	①取り出しの特別支援では、寄り添った指導ができていた。②一般級担任と個別級担任の連携はできていた。全教職員でさらに共通理解を図れるよう情報交換をしていきたい。③ユニバーサルデザイン・合理的配慮の研修を実施した。さらに活用できるようにしたい。	B	特別支援教育	①児童一人ひとりの見取りを的確に行い、寄り添った指導を行う。②一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に進め情報共有する。③ユニバーサルデザインについて研修を深め、一般級でも積極的に活用する。④合理的配慮について研修会を実施する。	①特別支援の必要な児童の見取りを行い、ITや取り出し等で寄り添った指導をした。②一般級と個別級担任で児童交流の打合せを共有する。③ユニバーサルデザインについて研修を深め、一般級でも積極的に活用する。④合理的配慮について研修会を実施する。特別支援の視点を取り入れた教室環境の共通理解をした。	B	特別支援教育	①特別支援コーディネーターからの発信で、ユニバーサルな視点での授業改善、支援の必要な児童への的確な見取りと支援の推進を図る。②一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に進め情報共有する。③大学や他機関との連携を図り、特別支援教育の実践力を高めるとともに、ボランティア等の活用で児童へ支援を厚くする。	①特別支援コーディネーターからの発信で、ユニバーサルな視点での授業改善、支援の必要な児童への的確な見取りと支援の推進を図る。②一般級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に進め情報共有する。③大学や他機関との連携を図り、特別支援教育の実践力を高めるとともに、ボランティア等の活用で児童へ支援を厚くする。	
地域連携	①地域防災訓練と防災総合訓練を協働実施できるよう準備を進める。②地域行事への参加を児童に促し、地域の一人としての自覚を高める。③生活科や総合の学習等で保護者サポートや地域の人材を活用することで、まちと共に子どもを育てる。	①地域防災訓練と防災総合訓練を、今年度は協働実施できなかった。②地域行事に参加している児童は多いものの、休日の習い事との兼ね合いで参加できない児童もいる。③保護者や地域の人材・資源を活用して学習を進めることができ、今年度新たに開拓された資源もあった。	B	地域連携	①地域防災訓練と学校行事(防災総合訓練など)を協働実施できるよう準備を進める。②地域行事への参加を児童に促し、地域の一人としての自覚を高める。③生活科や総合の学習等で保護者サポートや地域の人材を活用することで、まちと共に子どもを育てる。	①地域防災拠点の委員長に総合防災訓練を参観してもらい、講話をいただいたことで地域と学校の繋がりを児童が意識できた。②地域コーディネーターを委嘱し、地域学校協働本部を立ち上げた。児童の教育活動に地域資源を活用する見通しがもてるようになった。③給食の食材に地場野菜を取り入れ、学習にも繋げることができた。	B	地域連携	①地域防災訓練と学校行事(防災総合訓練など)を協働実施できるよう準備を進める。②地域行事への参加を児童に促し、地域の一人としての自覚を高める。③生活科や総合の学習等で保護者サポートや地域の人材を活用することで、まちと共に子どもを育てる。	①地域防災訓練と学校行事(防災総合訓練など)を協働実施できるよう準備を進める。②地域行事への参加を児童に促し、地域の一人としての自覚を高める。③生活科や総合の学習等で保護者サポートや地域の人材を活用することで、まちと共に子どもを育てる。	
			いじめへの対応	①他者との豊かな関わりを経験することで、自己の大切さに気づき、自分に自信がもて、他をいたわる態度を育てる。②いじめの定義を教職員、児童や保護者等で共有し、いじめについて適切に判断する力を身につける③早期発見と対応、必要に応じ専門機関と連携を図り、チームで支援を進める。	①教科や行事などの様々な場面で認めることで自己有用感を育て、自分に自信がもてるようになってきた。②全校朝会やクラスでいじめの定義や対応の仕方を伝えてきた。③児童の様子をよく見ることや無記名アンケートをとるなどで早期発見に努めてきた。担任だけでなく、チームで支援を進めていく。	B	いじめへの対応	①教科学習や生活の中で、またYPプログラムを活用し、他者との豊かな関わりを経験することで、自己の大切さに気づき、自分に自信がもて、他をいたわる態度を育てる。②いじめの定義を教職員、児童や保護者等で共有し、いじめについて適切に判断する力を身につける③早期発見と対応、必要に応じ専門機関と連携を図り、チームで支援を進める。	①教科学習や生活の中で、またYPプログラムを活用し、他者との豊かな関わりを経験することで、自己の大切さに気づき、自分に自信がもて、他をいたわる態度を育てる。②いじめの定義を教職員、児童や保護者等で共有し、いじめについて適切に判断する力を身につける③早期発見と対応、必要に応じ専門機関と連携を図り、チームで支援を進める。		
人材育成・組織運営	①教務会を中心に、ミドルリーダー、学校リーダーが全体を見通して学校運営していく場を設定する。②メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。③グループウェアを活用し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。	①教務会の機能を果たしているが、事前の準備や内容の精選などで会議時間の短縮をさらに図りたい。②お互いの課題を出し合うなど良い雰囲気で行われているが、ミドルリーダーの関わりを強くし、より計画的に進めるようにしたい。③情報共有や効率化が図られているが、職員間で意識の差がある。	B	人材育成・組織運営	①学校づくり部会での話し合いを充実させることで、教務会や職員会議での内容の精選や会議時間の短縮を図る。②メンターチーム及びミドルリーダーで計画的に研修を進め、研修内容を全教職員に発信していく。	①学校づくり部会の位置づけを確認し、リーダーである主幹教諭への指導・助言を通して学校の組織力向上を図った。②夏休みの全職員参加の研修や、ミドルリーダーのリードによりメンターチーム研修など1年間を通して充実した研修ができた。③職員の負担軽減のための工夫を実行し、効率的な学校運営を意識化することができた。	B	人材育成・組織運営	①学校づくり部会のリーダーに主幹教諭を配置し、職員ひとり一人が学校運営のノウハウを学び、主体的に学校づくりに参画できるようにする。②メンターチーム及びミドルリーダーで計画的に研修を進め、内容を全教職員に発信していく。③職員の負担軽減への工夫をさらに進め、職員が児童に関わる時間を確保し安定した学校運営ができるようにする。	①学校づくり部会のリーダーに主幹教諭を配置し、職員ひとり一人が学校運営のノウハウを学び、主体的に学校づくりに参画できるようにする。②メンターチーム及びミドルリーダーで計画的に研修を進め、内容を全教職員に発信していく。③職員の負担軽減への工夫をさらに進め、職員が児童に関わる時間を確保し安定した学校運営ができるようにする。	
ブロック内相互評価後の気付き	小学校での授業を小中合同で参観及び研究会を行い、また一貫カリキュラム会議の実施により、小中の教科観や教材観の違いを実感することができ、授業改善の必要性を提示できた。児童生徒交流日や、運動会や体育祭での児童生徒交流、中学校地区懇談会への小学校教職員の参加、ブロック専任会による情報交換など交流を行ってきた。小中教職員の小中一貫への理解や取組への意識をさらに高めることや、移動時間の限られた時間内での活動や交流の時間と内容の検討が必要である。		ブロック内相互評価後の気付き	中学校授業参観における小中合同授業研究会、及び小中一貫カリキュラム会議を行い、9年間で育てる子ども像を元に、小中学校における教科の連続性を討議した。また、児童生徒交流日や、運動会や体育祭での児童生徒交流、中学校地区懇談会への小学校教職員の参加、ブロック担当者会、ブロック専任会による情報交換など交流を行ってきた。小中教職員の小中一貫への理解や取組への意識をさらに高めることや、保護者地域へのさらなる発信が課題である。		ブロック内相互評価後の気付き					
学校関係者評価	①年2回授業参観を通して、児童の学習の取組みや教員の指導力を見ていただき、率直なご意見をいただいた。保護者の実態を知っている方から、学力をつけるための連携の必要性を分かっていた。地域でのできることがあれば協力したいとの申し出がある。②児童の安全にかかわる、安全見守りについては以前よりご協力をいただいている。児童との交流を楽しみにされている方もいらっしゃる。さらに児童が積極的にあいさつをするように学校からも促していく。③地域の方々が高齢になり、気持ちはあっても、実際には動けないということもおっしゃっていた。しかし、学校に対しては好意的にとらえてくださっている。		学校関係者評価	30年度より、新教育課程への移行期間であることを説明し、特に「地域に開かれた教育課程」への協力をお願いした。今年度から、地域連携コーディネーターを推薦し地域学校協働本部を立ち上げたことにより、より一層地域との連携が密になり、学校・地域で、協力して子どもの成長のために協働できると評価をいただいた。今後も、学力向上・体力向上と豊かな人間性を育てるような教育活動を展開してほしいとの要望をいただいた。		学校関係者評価					
学校経営中期取組目標振り返り	一人ひとりの児童に丁寧な指導・支援を行うことで、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。個々の抱える課題は様々であるが、担任と学年職員さらに児童支援専任や管理職が課題を共有し取り組むことで改善に向け進むことができた。教職員の年齢構成がアンバランスなため、グループリーダーを中心に人材育成ができるように取り組んだ。来年度も継続し、さらに若手職員の成長を目指すことが必要である。学力・体力の向上については、結果を考察し、今後の取り組みを具体的に検討する必要がある。		学校経営中期取組目標振り返り	今年度も、一人ひとりの児童への丁寧な指導・支援を実施した。とくに、いじめについては、その予防と早期発見、早期対応ができるよう教職員が一丸となって取り組んだ。また、授業の中に特別支援教育・人権の視点を意識して取り入れることで、授業改善にもつながった。2年間の国語の研究の成果で、表現力が徐々に高まることにも、読書好きな児童も増えてきた。今後の学力向上に期待したい。		学校経営中期取組目標振り返り					